

16:36 【主】はモーセに告げられた。

16:37 「あなたは、祭司アロンの子エルアザルに命じて、炎の中から火皿を取り出し、火を遠くにまき散らせよ。それらは聖なるものとなっているから。

16:38 いのちを失うことになったこれらの罪人たちの火皿は、打ちたたいて延べ板とし、祭壇のためのかぶせ物とせよ。それらは、【主】の前に献げられたので、聖なるものとなっているからである。これらはイスラエルの子らに対するしるしとなる。」

16:39 そこで祭司エルアザルは、焼き殺された者たちが献げた青銅の火皿を取り、それを打ち延ばして祭壇のためのかぶせ物とし、

16:40 そのことがイスラエルの子らに覚えられるようにした。これは、アロンの子孫以外の資格のない者が、【主】の前に進み出て香をたくことのないようにするため、その人が、コラやその仲間のような目にあわないようにするためである。【主】がモーセを通してエルアザルに言われたとおりである。

16:41 その翌日、イスラエルの全会衆は、モーセとアロンに向かって不平を言った。「あなたがたは【主】の民を殺した。」

16:42 会衆がモーセとアロンに逆らって結集したとき、二人が会見の天幕の方を振り向くと、見よ、雲がそれをおおい、【主】の栄光が現れた。

16:43 モーセとアロンは会見の天幕の前に来た。

16:44 【主】はモーセに告げられた。

16:45 「あなたがたはこの会衆から離れ去れ。わたしはこの者どもをたちどころに絶ち滅ぼす。」

二人はひれ伏した。

16:46 モーセはアロンに言った。「火皿を取り、祭壇から火を取ってそれに入れ、その上に香を盛りなさい。そして急いで会衆のところへ持って行き、彼らのために宥めを行いなさい。【主】の前から激しい御怒りが出て来て、神からの罰がもう始まっている。」

16:47 モーセが命じたとおり、アロンが火皿を取って集会のただ中に走って行くと、見よ、神の罰はすでに民のうちに始まっていた。彼は香をたいて、民のために宥めを行った。

16:48 彼が死んだ者たちと生きている者たちとの間に立ったとき、主の罰は終わった。

16:49 コラの事件で死んだ者とは別に、この主の罰で死んだ者は、一万四千七百人であった。

16:50 アロンが会見の天幕の入り口にいるモーセのところへ戻ったときに、主の罰は終わっていた。

主に忠実であったモーセに逆らうということは、主に逆らうことになり、それは民全体も荒野で滅びるという結果になります。ですから主のさばきは民全体を生かすためです。反逆はコラ、ダタン、アビラムたちが始めたことでしたが、扇動された人々も同じく滅ぼされたのは、やはり民全体のためでした。イスラエルは共同体としてきよめられたのです。

反逆の3人は二百五十人に影響を与えたのですから、ある意味で指導者的であったかもしれませんが。しかし彼らは主に従わずに、自分たちのプライドや名誉欲に従ったのです。

私たちも教会などでは、ある時は指導する立場であり、またある時は指導される立場となるでしょう。モーセのように謙遜で従順な指導者であ

りましょう。また神に立てられた指導者には、民全体のためにもその權威を尊重しましょう。

反逆によってさばかれたことを、忘れないように、「祭壇のための被金」をつくりました。特にこれは「ほかの者（正しい祭司でない者）が…煙を立ち上らせることがないため」です。それは永遠の大祭司であるイエス様のひな型だから重要なのです。これをいい加減にするなら、イエス様のメシア像も曖昧になってしまいます。

イスラエルの会衆が「あなたがたは主の民を殺した。」と言いました。まだモーセへの不満が残っていたのか、または自分たちも同じ目に会うのではないという恐れから敵対心を持ったのか、または絶たれた人々への人間的な同情であったのかも知れません。

いずれにしても、このさばきはモーセがしたのではなく主のわざあり、反逆が原因なのですが、彼らはそれさえ責任転嫁してしまいました。主はこれらの民をも絶たなくてはなりませんでした。このことは私たちに教訓をあたえます。

神の共同体にトラブルが生じたときは、単に誰かを批判するようであってはなりません。主のみこころの真理をよくよく教えていただく必要があるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

